

z/d. 食物アレルギー



- 食物アレルギーの原因となる可能性が極めて低い加水分解蛋白質を使用
- 食物アレルギーの原因となりにくい高消化性の炭水化物を使用
- オメガ-3脂肪酸の量を調節し、栄養学的に炎症を管理し、皮膚・被毛の健康を維持
- 抗酸化作用があるビタミンE、ビタミンC、ベータカロテンを配合し、健康維持に配慮

〈犬用〉ドライ製品：ULTRAアレルギー・フリー、低アレルギー
缶製品：ULTRAアレルギー・フリー

〈猫用〉ドライ製品：低アレルギー
缶製品：ULTRAアレルギー・フリー

d/d. 皮膚のかゆみ、食物アレルギー



- オメガ-3脂肪酸の量を調節することで、栄養学的に炎症を管理し、皮膚・被毛の健康を維持
- 抗酸化作用があるビタミンE、ビタミンC、ベータカロテンを配合し、正常な免疫と皮膚バリアを維持
- 食物アレルギーの原因となりにくい消化性の高い炭水化物とバリエーション豊富な蛋白質（新奇蛋白質）を使用

〈犬用〉ドライ製品：エッグ&ライス、ダック&ポテト、サーモン&ポテト
缶製品：ラム&ライス、ダック&ポテト

〈猫用〉ドライ製品：ダック&グリーンピース

体質や好みに合わせて選択できます。

■ かゆみをともなう皮膚病の管理に幅広く適応

低アレルギー トリーツ

〈犬用〉食物アレルギー、皮膚炎

- 〈犬用〉z/d d/d i/d と一緒に与えることができるおやつです

Hill's ヒルズのプリスクリプション・ダイエット
食物アレルギー管理用フード

z/d. d/d. 低アレルギー トリーツ

※ 獣医師の指示にしたがって与えてください。

z/d. 食物アレルギー

〈犬用〉ドライ 1kg, 3kg, 7.5kg

缶詰 156g, 370g

〈猫用〉ドライ 500g, 2kg

缶詰 156g



d/d. 皮膚のかゆみ、食物アレルギー

〈犬用〉ドライ 1kg, 3kg, 7.5kg

缶詰 370g

〈猫用〉ドライ 2kg



低アレルギー トリーツ

食物アレルギー、皮膚炎

〈犬用〉ドライ 180g



病院名

販売元
Hill's 日本ヒルズ・コルゲート株式会社
〒135-0016 東京都江東区東陽3-7-13

販売総代理店
大日本住友製薬株式会社
〒553-0001 大阪市福島区海老江1-5-51

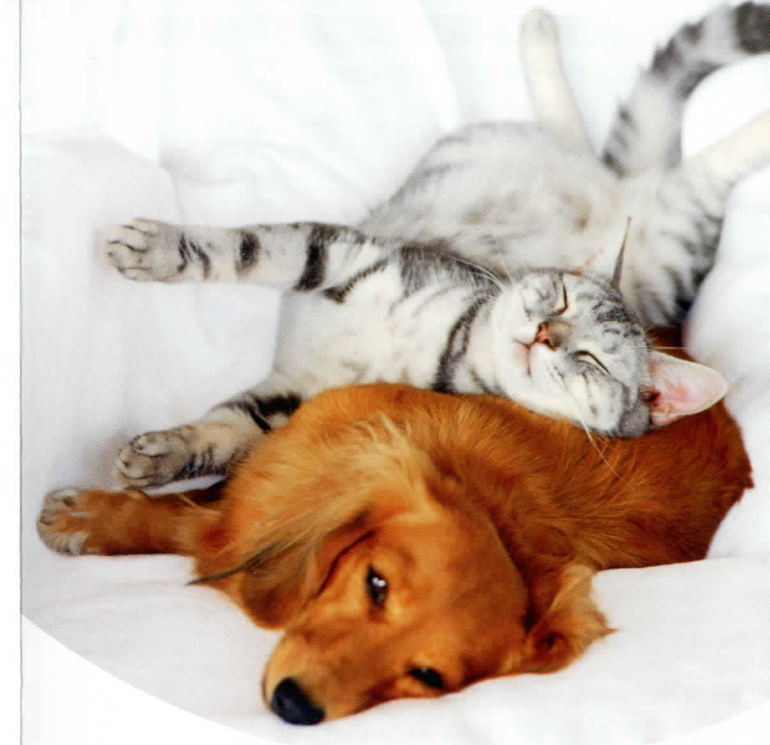
愛犬愛猫に関する情報 ヒルズホームページ <http://www.hills.co.jp>

※製品のデザイン・重量などは変更することがあります。

2008.06



犬と猫の食物アレルギーのおはなし



食物アレルギーとは

食物アレルギーは食物有害反応のひとつで、さまざまな年齢で発症し、時間とともに症状が進んでいきます。症状はアレルギーの原因となる原材料を含む食事をとった直後から現れはじめます。食物中に、分子が大きく、消化されにくい蛋白質が含まれていると、その蛋白質を体内の免疫システムがアレルギー（アレルギーの原因）と認識してしまうことによってアレルギーが引き起こされます。



※定期的に獣医師の診察をお受けください。

食物アレルギーの原因

食物アレルギーは、簡単な検査法ではその原因を特定できないのが現状です。原因の特定には、獣医師と二人三脚で根気強く取り組んでいきましょう。

アレルギー症状を起こす可能性のある食物とは？

アレルギーの原因となる主な食物



- 1.牛肉
- 2.乳製品
- 3.小麦



- 1.牛肉
- 2.乳製品
- 3.魚



！ こんな症状が出たら要注意

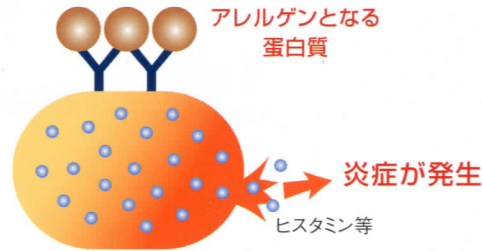
日ごろからペットの行動をチェックして、以下のような症状がみつかったら、早めに動物病院にご相談ください。

- 年中いつでもかゆがっている
- ひどいかゆみがあり、掻きむしっていることがある
- 特に、口やお尻のまわり、足元、お腹をかゆがることが多い
- 食欲や飲水量も変わった
- ウンチが軟らかくなった
- 最近食事を替えたなら、かゆがるようになった

食物アレルギーのしくみ

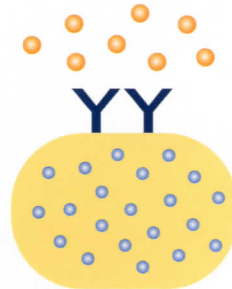
食物アレルギーは、日常摂取する食事に含まれる主として蛋白質が引き金になっています。アレルギーの構造や分子の大きさがアレルギー反応を引き起こすといわれています。

食物アレルギーが起こるしくみ



食物アレルギーを起こす可能性が低い

アレルギーの原因にならないくらい
小さい分子の蛋白質
(加水分解蛋白質)



アレルギーと認識されない、種類の異なる蛋白質も
アレルギー反応を起こしにくくなります

食事管理のポイント

- 消化性が高く、アレルギーと認識されにくい蛋白質を含むフードを選びましょう
蛋白質が十分消化されずに大きい分子のまま吸収されるとアレルギーを起こしやすくなります。蛋白質をアレルギーの原因にならないくらい小さく分解(加水分解)したものや、犬猫にとって新しい種類の蛋白質(ラム、アヒルなど)はアレルギーを起こす可能性を低くします。
- 蛋白質の種類が少ないフードを与えましょう
蛋白質の種類を限定することにより、アレルギーを起こす可能性を低くします。
- 必須脂肪酸(オメガ-3脂肪酸)を多く含むフードを与えましょう
必須脂肪酸は、皮膚・被毛の状態を保つとともに、かゆみの軽減を助けます。

ホームケア

- 獣医師が指示した食事以外は、与えないようにしましょう。治療や食事の変更、おやつについても獣医師に相談しましょう
- 人の食物やおやつを与えないようにしましょう
- 動物性の素材でできた噛むおもちゃは与えないようにしましょう
- 新鮮できれいな水を与えましょう
- あなたのペットが現在食事管理をしていることを周りの人に知らせ、協力してもらいましょう

アレルギーとなるものは、さまざまなフードや物質に含まれていることが多く、注意が必要です。

